

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 千代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

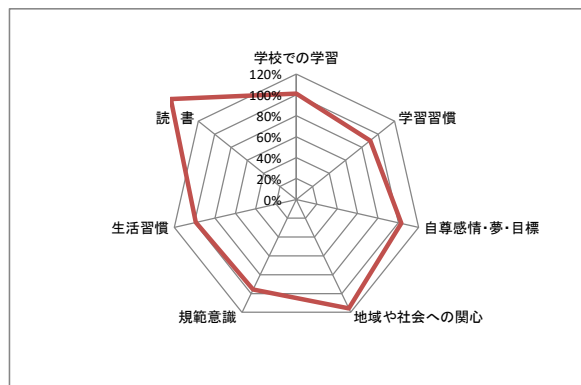
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・書くことに関する記述式の問題の正答率が全国平均正答率を上回っている。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項が全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が低かった	
算数	全体的な傾向や特徴など	・数と計算、図形の領域が全国平均正答率を上回っている。 ・無解答率も低く、積極的に取り組んでいるが、変化と関係、データの活用の領域で全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率が高かった。	同程度である
	努力が必要な問題	・グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じる児童が多い。 ・普段から読書をしている児童が増えている。しかし、家庭学習定着の取組である自学については、計画的・継続的に取り組んでいる児童は多くない。 ・自分にはよいところがある、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童の割合が高く、自尊感情が高まっている。 ・普段のテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)の時間が1時間未満の児童の割合が全国平均よりも低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・学力定着サポートシステム(3～6年)、MIM(1・2年)を活用し、児童の実態把握や基礎的な学習内容の定着に努めていく。
・児童が更に考えを深め・広げ・課題解決につながる学びができるよう、学校全体で「聞くスキル」「話すスキル」の指導を丁寧に進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・自学の取り組み方を書いた「がんばろう家庭学習カード」、すばらしい自学を紹介する「自学掲示板」に加え、定期的に「自学ノートコンクール」で頑張った児童を表彰し、家庭学習に取り組む意欲を高めるようにしていく。
・今後も、学年通信や学級通信を定期的に発行し、保護者に学習の様子や児童の頑張る姿を伝えるようにしていく。